

R7年度「海洋生態系における低次生産を学ぶ演習」

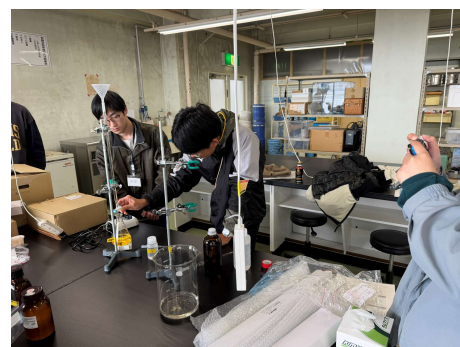
2026年3月3～6日に実験所で合宿の「海洋生態系における低次生産を学ぶ演習」を開講しました。今年は広島大学生の他、京都大学からも学生が参加し実施しました。多様な海洋の低次生産の担い手に対する評価手法を学ぶうえで、海底に広がる藻場については、近年活用されるドローンを用いた沿岸空撮と空撮画像からの藻場面積測定を行いました。また、実験所周囲の海を利用して、調査船でのプランクトンネット曳網や、潮間帯磯でのラインセンサス法を用いた、動植物プランクトンや海藻・貝類の採取、定量調査手法の実習を行いました。低次生産の評価における光合成量分析については、採取した海藻類を用い実験室で光合成試験を行い、ウィンクラー法での光合成量分析手法を学びました。本演習を通じ、海洋の低次生産について、低次生産の担い手となる生物の採取・観察を始め、沿岸域における生産力評価に用いられる化学分析手法や最新機器を用いた調査法など、多岐にわたるアプローチへの理解を深めてもらえたと思います。

来年度も開講予定（2027年3月8日（月）～3月11日（木）開講。 他大学から受講の場合は、**利用する単位互換制度によって7月下旬に出願締切となる場合があります。** 早めに自身の利用可能な単位互換制度について出願締切日を確認してください）ですので興味のある学部生の皆様、他大学の先生や学生と交流を深めつつ海藻生い茂る早春の瀬戸内海を体感できるこの実習をぜひ受講しに来てください！！

ドローンでの藻場空撮と画像分析



光合成量の化学分析
[ウィンクラー法実習]



海藻の定量調査[ラインセンサス法実習]



乗船してのプランクトン採集

